

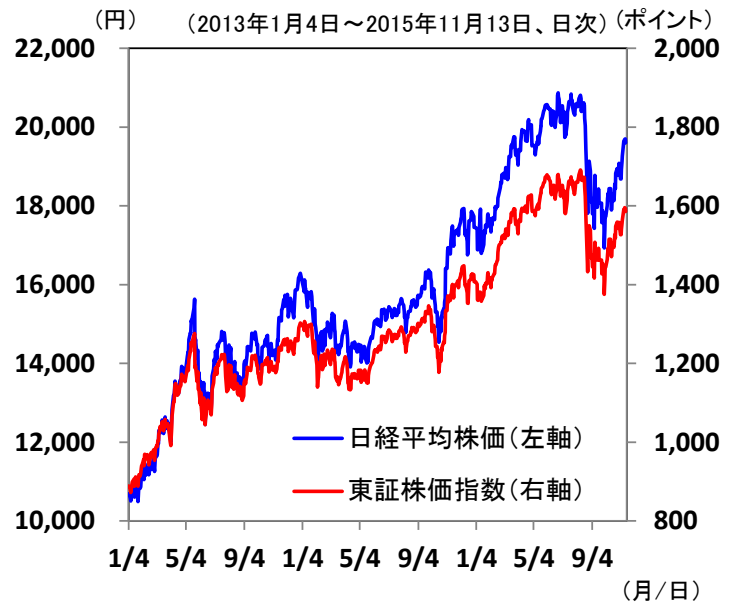
# 週間市場レポート (2015年11月9日～13日)

## (1) 日本の株式・債券市場

### 株式市場の動き

■先週の日本株式市場(日経平均株価)は、為替市場での円安や企業業績の拡大、政府が景気下支えのために財政出動に踏み切るとの思惑等から買いが優勢で推移。12日(木)まで7営業日連騰し、約2ヵ月半ぶりの高値をつけました。週末13日(金)は、翌週に7～9月期実質国内総生産(実質GDP)の発表を控えていることもあり、様子見ムードの中、欧米株安を受けた売り等により小幅反落して引けました。(週末引け値:19,596.91円)

■週間では、日経平均株価は1.72%の上昇、東証株価指数は1.42%の上昇でした。

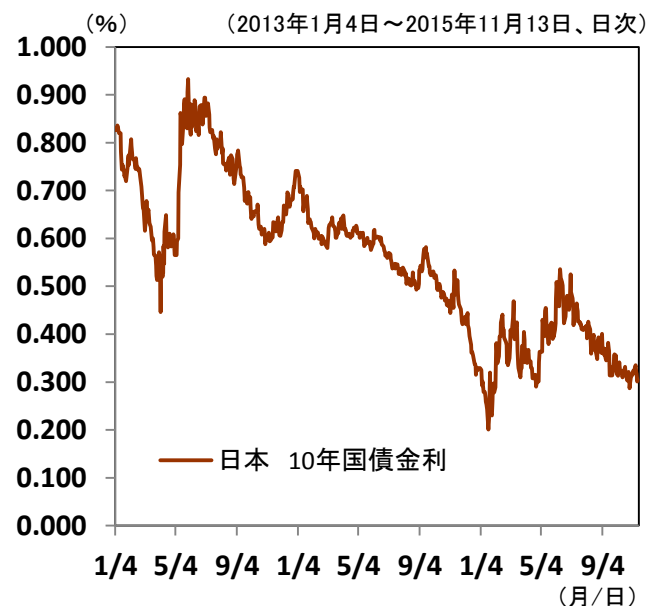


出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

### 債券市場の動き

■先週の日本債券市場(10年国債金利)はやや低下傾向となりました。10日(月)は米債安や内外の株価上昇を受けて金利は上昇しました。その後は株価が堅調に推移したものの、30年国債の入札が無難に通過したことや日銀買入れなどから好需給が意識されて買い優勢の傾向が継続しました。ポジション調整と見られる売りもあって上値は抑えられ金利は横ばいの推移となりました。13日(金)は内外株価が下落したこと、翌週発表の7～9月期実質GDPを巡る思惑等から買いが優勢となり、金利は低下しました。(週末引け値:0.305%)

■週間では、10年国債金利は0.019%の低下でした。

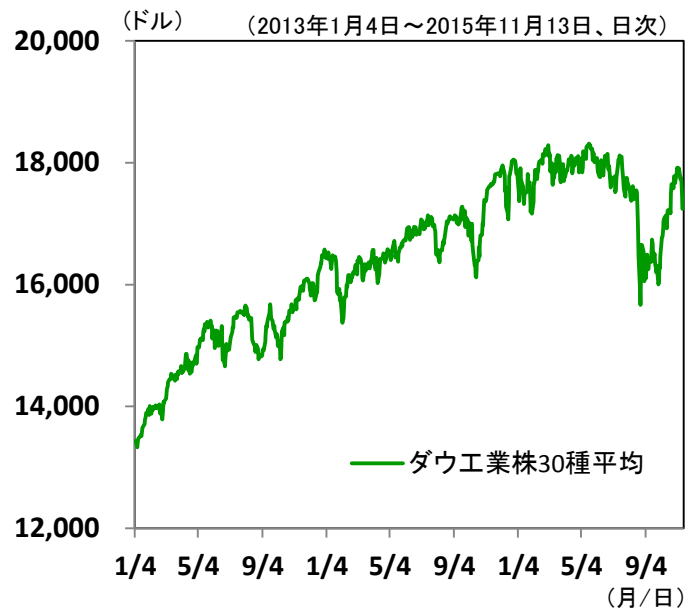


出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## (2) 米国の株式市場

### 市場の動き

- 先週の米国株式市場(NYダウ)は、週間を通して軟調な展開となりました。11日(水)から週末13日(金)にかけては、原油安や12月利上げに前向きな米連邦準備制度理事会(FRB)高官発言、冴えない小売り売上高指標等を嫌気して下落しました。この間の下げ幅は500ドルを超え、結局、10月21日(17,168.61ドル)以来の水準で引けました。(週末引け値:17,245.24ドル)
- 週間ではNYダウは3.71%の下落となりました。

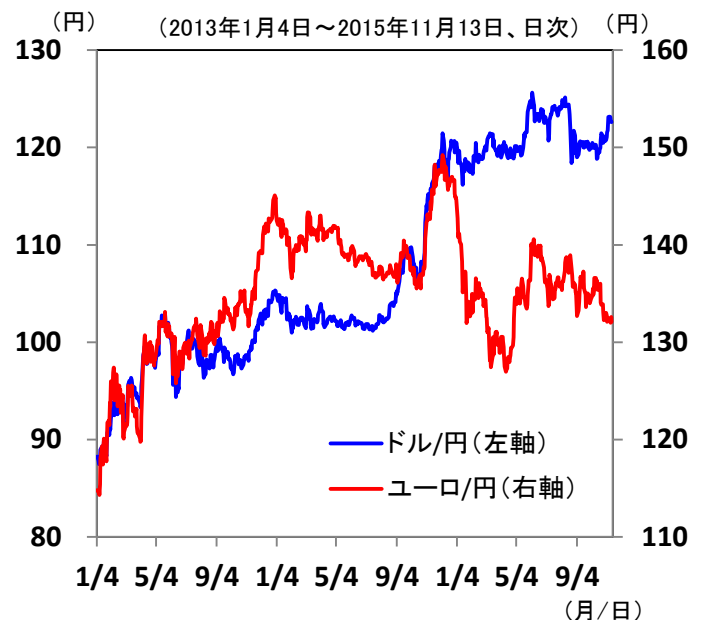


出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## (3) 外国為替市場

### 市場の動き

- 先週のドル円相場は、週初は年内の米利上げ観測などからドル買い円売りが優勢となりました。その後は手掛かり難の中、ドル高円安の進行の早さに対する警戒感からドル売りがやや優勢となりました。週末にかけては米年内利上げ観測によるドル買いは継続したものの、欧米株安を受けたリスク回避姿勢が強まり、122円台半ばまで円が買われました。(週末引け値:122円55銭～65銭)
- 週間では米ドル円は0.42%の円高、ユーロ円は0.12%の円高となりました。



出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成